

河内晩柑の栽培に励む南宇和高校が『全国高校生農業アクション大賞』準大賞を受賞



愛媛
CATV
動画

南宇和高校農業科果樹専攻班の生徒で構成する、河内晩柑救い隊「平山軍団」が『全国高校生農業アクション大賞』において準大賞を受賞しました。

この大賞は、全国農業協同組合中央会と毎日新聞社が毎年主催し、生徒グループによる農や食に関するプロジェクトや課題研究を支援・表彰。3カ年度を単位にした取り組みを対象とし、優れた活動計画のグループには、初年度に支援金を助成、さらに3年度目に、優れた活動実績のグループを公開審査で選出し、大賞・準大賞の表彰を行っています。



▲照度実験を行う様子



▲樹高測定およびドローンを活用した密植調査



▲生徒自ら樹に登り剪定作業

南宇和高校農業科は、令和4年度に実施された第6回大賞に河内晩柑救い隊「平山軍団」として応募し、全国15団体のみが選ばれる認定を受けました。本町が生産量全国1位を誇る河内晩柑の高樹高化による作業効率の低下と、担い手の高齢化を本町の柑橘栽培を取り巻く課題として着目した生徒は、低樹高栽培に関する実証研究を御荘平山にある学校園地で3カ年にわたり進めてきました。低樹高化による効率化・省力化を図り持続可能な栽培環境を確立して『毎日行きたくなる果樹園』を最終目標に、愛媛県南予地方局愛南農業指導班、JAえひめ南マルエムフルーツアイランドなど、関係機関からの協力を受けて積極的な活動を続け、今年度、大賞候補校7校に選出されました。

生徒らは11月11日(月)に東京都で開催された最終プレゼン審査会および表彰式に出席。プレゼン発表では、農業科で取り組んでいる果樹栽培にAI(ドローン撮影による園地診断)を活用したスマート農業の実践と持続可能な農業の実現に向けて、先輩たちから引き継いだ取り組みの数々や持続可能な河内晩柑栽培に向けた取り組みが審査員から高い評価を受け、準大賞に輝きました。

審査会および表彰式に出席した2年生の中野幸村さんは、「農業科に入って柑橘栽培に携わり初めて知ることも多い中で、先輩方から引き継いだ低樹高化の取り組みを進めてきました。これまでの取り組みで得た学びや結果をもとに、低樹高化を地域に普及して持続可能な農業につながる活動を続けていきたい」と抱負を述べました。



第74回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰を河内修二さんが受賞

更生援護功労者として長年の功績を認められた河内修二さんが、第74回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰を12月6日(金)付けて受賞し、12月12日(木)に東京會館で行われた表彰式に出席しました。

河内さんは自分と同じようにハンデを抱えた人たちが不自由なく暮らしやすい環境づくりを目指すため、更生援護と障がい者福祉の向上に大きく貢献してきました。

その活動は町内だけにとどまらず、公益財団法人愛媛県身体障害者団体連合会会長を務めているほか、愛媛県からは初となる日本身体障害者団体連合会の副会長も歴任し、現在は同連合会の理事としても精力的な活動を行っています。

表彰式を終えた河内さんは、「事故で人生が一変し不自由な生活が始まりましたが、家内をはじめ家族の支えがあったおかげで活動を続けることができ、感謝してもしきれない。障がいを持った方の生活について知らない人が多いと感じており、啓発をしながら障がい者の社会参加につながる活動をこれからも続けていきたい」と力強く述べました。



【日本身体障害者団体連合会とは】

障がいがあっても地域で安心して充実した生活ができる社会を目指して活動を行う全国最大規模の障がい者団体です。全国組織のネットワークを生かし、国などへの要望活動や政策提言など幅広く活動を展開しています。

地域おこし協力隊 活動日記

「愛南の呼吸 式の型 こうも」

商工観光課地域おこし協力隊の吉田庄吾しょうごです。

昨年しゅうごの2月に、地域おこし協力隊の面接で愛南町を訪れました。愛南町に来たのは、小学生の頃、夏休みに南レクプールで遊び、須ノ川公園にテントを張って泊まった時以来でした。松山からは車で来ましたが、国道56号を走り愛南町に入ったころ、右手に見える輝く宇和海から、ペリカンのような大きな鳥が車と並行飛行し、出迎えてくれたのを覚えています。その日は天気も良く、2月にしては暖かな日でした。面接終了後、中浦経由で高茂岬や外泊の石垣を見に行きました。高茂岬から見る海は絶景で、何か心が軽くなったような気分で、東京の親友にLINE電話しました。その友にも絶景を見せて驚かせてやろうとビデオ通話をしました。電波が弱く、すぐに音声だけの通話に切り替えましたが、絶景を見せることはできました。そこで、川崎から愛南に引っ越すかもしれないという話をしました。



さて、それから約1年が過ぎ去り、また春が来ます。現在は、町内の事業者を訪問し、雇用や外国人材についての話をお伺いして回っています。これまでお会いした方々、ありがとうございました。私事ですが、先日行政書士の登録をしました。こちら楽しんでやっついこうと思います。「そうだ、高茂に行こう」

防災・減災への意識向上を図る作品コンクール 絵画部門・作文部門で3人が上位入賞!



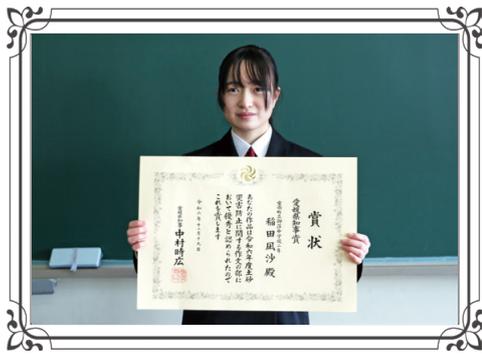
作品の制作を通じて土砂災害防止についての理解や関心を深めることを目的に、次世代を担う小・中学生を対象として開催された「土砂災害防止に関する絵画・作文」において、篠山小学校4年生の岡崎結愛さんが絵画部門で愛媛県知事賞、同じく3年生の中平和希さんが愛媛県砂防協会会長賞を受賞しました。

12月19日(木)に篠山小学校行われた授与式では、愛媛県砂防協会副会長の中村維伯町長から2人に表彰状が手渡されました。

「迷わず逃げろ!」という言葉が印象的な岡崎さんの作品は、細部まで丁寧かつ力強い作品となっており、中平さんの作品は色彩の美しさと人物の表現が優れていることなど、それぞれ高い評価を受けることができました。



【愛媛県知事表彰】 岡崎 結愛さん
【愛媛県砂防協会会長賞】 中平 和希さん



【愛媛県知事賞】 稲田 風沙さん

また、同表彰において御荘中学校2年生の稲田風沙さんが作文部門で愛媛県知事賞を受賞しました。

土砂災害警戒区域に指定されている地域に住む稲田さんは、小学生の頃に総合的な学習の時間で防災マップを作製したことをきっかけに、防災について家族と話し合い、自身の防災への向き合い方などについて考えた作文を書きました。

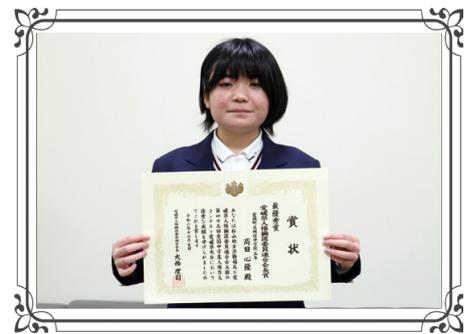
今年度は、県内で絵画・作文合わせて110点の応募がありました。



「第43回全国中学生人権作文コンテスト」 城辺中学校3年の高田心優さんが奨励賞を受賞

『小さい命とともに生きる』というタイトルで5歳離れた弟について思いを込めて書き上げた城辺中学校3年の高田心優さんの作文が全国中学生人権作文コンテスト愛媛県大会で最優秀賞(県人権擁護委員連合会長賞)に輝き、さらに全国大会においても奨励賞を受賞しました。高田さんは、「障がいの目に見える見えない関係なしに、少しの事でも気にかけて生活してほしい」と話し、支え合う社会の実現を願う思いを述べました。

このコンテストは、日常の家庭生活や学校生活などの中で得た体験に基づく作文を書くことを通し、人権尊重の大切さや豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的とし法務省と全国人権擁護委員連合会が実施しており、全国大会には6,450校から736,513作品の応募がありました。



【県人権擁護委員連合会長賞】
【全国(中央)大会 奨励賞】

高田 心優さん
『小さい命とともに生きる』

第17回B&G全国サミット 優良海洋センター 20年連続「特A評価」表彰

1月22日(水)、公益財団法人B&G財団が主催する、「第17回B&G全国サミット」が開催され、御荘B&G海洋センターが優良センターアワードにおいて、20年連続「特A評価」を獲得しました。

これは、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりの場として、プール・体育館を積極的に活用されたことが認められ、B&G財団が管理運営基準の指標として定める「海洋センター評価」で最も優良な「特A評価」を20年連続で獲得した実績によるものです。

表彰式に出席した中村維伯町長は、「今後もB&G財団の推進する事業に積極的に取り組み、スポーツを通じて、『まちを元気に、ひとを元気に』していくため、幅広い活動を展開していきたい」と決意を述べました。



▲B&G財団の前田康吉会長から表彰状を受け取る中村維伯町長



▲御荘B&G海洋センター職員と歴代指導者

20年連続「特A」表彰を受賞している海洋センターは、全国457センターのうち、5カ所のみで、四国では愛南町が初の受賞です。

御荘B&G海洋センターでは「今回の表彰を励みに、青少年の健全育成はもとより、町民の健康寿命延伸のため、各種事業に取り組んでいき、これからも地域の皆さまから愛される施設となるよう努めていきたい」と今後の展望を話しました。

令和6年度「愛顔感動ものがたり」写真部門 濱本秀雄さん(船越)が2年連続入賞

愛媛の知名度向上のために県が行う「愛顔感動ものがたり」写真部門(応募総数5,601作品)において、濱本秀雄さんの作品が入選しました。

写真タイトル「心はずむ春」(令和5年4月1日撮影)

南レク大森山桜園に母親と共にお花見に訪れた双子ちゃん。出会ってから小一時間、そろそろ帰り支度をする頃になってようやくとびっきりの愛顔で答えてくれました。

令和2年度、令和5年度に続いて入賞することができて喜びもひとしおです。これからも皆さんに元気や希望を届けられるように「愛顔」を撮り続けたいと思っています。(濱本秀雄さんより)



「第74回社会を明るくする運動作文コンテスト」 町内中学生3人が全国・県で見事入賞!



愛媛
CATV
動画

法務省主催の「社会を明るくする運動」作文コンテストで、城辺中学校2年生の稲垣あゆみさんが書いた『誰もが自分らしく』が全日本中学校長会会長賞(優秀賞)に輝き、1月8日(水)に城辺中学校で表彰状授与と作文朗読が行われました。

同運動は、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動で、今年度の作文コンテストには全国から301,664点の作品が寄せられました。

稲垣さんは同運動の講演会に参加して犯罪や非行について考え、特に国内の再犯率の高さについて着目し、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けて自身の思いを綴りました。

全校生徒の前で堂々と朗読をした稲垣さんは、「私1人では何もできないけど、周囲の人たちと協力して少しでも多くの人が救われる社会になってほしい」と力強く話しました。



【全日本中学校長会会長賞】

稲垣 あゆみさん
『誰もが自分らしく』



【愛媛県教育長賞】 岡本 健太郎さん
【愛媛県保護司会連合会会長賞】 中尾 奈愛さん

また、同コンテスト愛媛県推進委員会において一本松中学校2年生の岡本健太郎さんの『「ほっとけない」でつながろう』が愛媛県教育長賞、中尾奈愛さんの『人に優しく温かい地域を目指して』が愛媛県保護司会連合会会長賞を受賞しました。

講演会での学びや自身の経験を生かして作文を書き上げた2人。作文の執筆を通して思いやりの気持ちや寄り添う気持ちについて考え、中尾さんは「生徒会長として責任感を持って活動していきたい」と話し、岡本さんは「生徒会四役の自覚を持ち、少しでも学校のために行動できる人間になりたい」と述べました。



愛媛
CATV
動画

令和6年度明るい選挙啓発ポスターコンクール

柏小学校5年生の河野虹史朗さんが県審査で佳作受賞

選挙が明るく正しく行われるよう呼び掛けるポスターを全国の児童生徒に制作してもらい、令和6年度明るい選挙啓発ポスターコンクールにおいて、柏小学校5年生の河野虹史朗さんが県審査で佳作を受賞しました。

河野さんは、投票所の様子と「自分の意見を一票に込めて」というメッセージの背景を全面黄色で仕上げました。「黄色で明るくすることで投票しやすい雰囲気表現したり、その一票で愛南町が明るくなるんだということを表現した」と、入賞の喜びを笑顔で話す河野さん。また、「将来投票できるようになったら責任感を持って投票したい」との思いも語ってくれました。



【愛媛県審査 佳作】

河野 虹史朗さん

12/
11

一本松中学校と 一本松チャリティーゴルフコンペ実行委員会から寄付の贈呈



愛媛
CATV
動画



▲地域に役立ててほしいと寄付金を図書カードにして手渡す各団体

役場本庁の教育長室で一本松中学校と一本松チャリティーゴルフコンペ実行委員会から寄付金の贈呈がありました。

一本松中学校2年生の3人は総合的な学習の時間に、持続可能な開発目標(SDGs)の一つである“貧困をなくそう”について学習したことをきっかけに、活動の中で集まったお金を中尾茂樹教育長に手渡しました。生徒たちは「身近なことから自分にできることをしていきたい」と話し、中尾教育長は「将来、町に貢献できる人材になってほしい」と期待の言葉を述べました。

一本松チャリティーゴルフコンペ実行委員会からは、教育委員会、保健福祉課、社団法人南宇和ありんこくらぶへ寄付がなされ、受け取った中尾教育長、保育所長、ありんこくらぶ代表は「大切に使用したい」と感謝の言葉を伝えました。

12/
19

地元に想いを届ける取り組み 明治安田生命保険相互会社「私の地元応援募金」目録贈呈



愛媛
CATV
動画



▲目録を手渡す石桁健司支社長と受け取る中村維伯町長

役場本庁町長室で明治安田生命保険相互会社から寄付金の贈呈がありました。

これは「私の地元応援募金」として明治安田グループが実施しており、全従業員が出身地や居住地など、ゆかりのある地域の自治体へ募金し、それに会社からの寄付を上乗せすることで、人と人とのつながりの創出や住民の暮らしの充実を図り、豊かな地域づくりへの貢献を目的に実施されています。

高知支社の石桁健司支社長は「健康寿命の延伸、少子高齢化対策など、さまざまな事業に役立ててほしい」と目録を手渡し、中村維伯町長は感謝の意を伝えるとともに「スポーツ環境の改善や住民サービス向上に活用していきたい」と話しました。

12/
21

「食の大切さ」を考える 第14回愛南町食育推進大会開催



愛媛
CATV
動画



▲宇佐亮子さんによる食育講演会の様子

御荘文化センターの大研修室で「未来につなげよう!伝統的な食文化と元気な体」をテーマに「第14回愛南町食育推進大会」が開催され、地域住民や食育関係者等、約110人が参加しました。

城辺中学校、原田光香栄養教諭より学校給食センターや各学校での出汁教育や特色ある給食の提供等の取組発表がありました。また、町出身で管理栄養士、公認スポーツ栄養士である宇佐亮子さんによる「人生100年!食でつなげる未来の私」と題した食育講演会が行われ、参加者が自分の「食習慣」を見直し、「食の大切さ」について深く考える機会となりました。

1/6 愛南町出身の木工家 山本伸二さん
役場本庁に約2メートルの木製ベンチを寄贈



▲左から 山本伸二さん、木原荘二副町長
山本治幸さん



三重県在住で町出身の木工家、山本伸二さんから木製ベンチが寄贈されました。

山本さんの作品は『木精肌具』と名付けられており、「木を肌に触れてやすらぎを感じてもらおう」という意味合いが込められています。今回寄贈された木製ベンチは長さ約2メートルの大作で、柔らかなアーチを描いた木のぬくもりあふれる作品となっています。

搬入のため役場本庁を訪れた山本さんは、「これだけ自然に囲まれている愛南町でも、子どもたちが海や山の自然に触れる機会は少ないと思います。このベンチに座って触れて、感受性を育てほしい」と笑顔で話し、兄の治幸さんと設置作業を進めました。

役場本庁1階の待合ホールに設置していますので、ぜひ木のぬくもりを感じてみてください。

1/19 地域防災力の向上を目指し
令和7年愛南町消防出初式を挙



1月19日(日)、愛南町消防出初式が御荘文化センターで行われました。屋内での開催となった式には町内の消防団員252人(出勤人員)が参加しました。今回は初の試みとして宿毛市消防団ラッパ隊が式に参加し、会場内に力強く華やかな音色を響かせ、団員らの士気を高めました。

消防団員に向けて中村維伯町長は、「消防人としての高い誇りと、その責務の重要性を深く認識し、あらゆる災害に即応できる心身の鍛錬、技術の錬成に努められていることと思います。町民の厚い信頼と期待に応えていただいていることに対し、感謝と敬意を表しますとともに、一層のご活躍を期待します」と式辞を述べました。

令和7年愛南町消防出初式の被表彰者は次のとおりです(敬称略)。なお、日本消防協会長表彰の表彰状授与は、3月に行われる予定です。

【日本消防協会長表彰】(伝達)

功績章 御荘方面隊本部副団長 野平真一郎

精績章 内海方面隊本部副団長 児島洋裕

勤続章 内海方面隊本部副団長 前田淳 ほか13名

【愛媛県知事表彰】

功労章 一本松方面隊第4分団副分団長

都築 昌宏 ほか4名

【自治体消防75周年記念表彰

「日本消防協会会長表彰」

消防団員家族表彰

城辺方面隊 林真大・林いずみ・林大翔

一本松方面隊・消防団本部

河野勝也・河野しおり・河野朱里

【愛媛県消防協会長表彰】

功績章 西海方面隊第3分団班長 後藤 建也 ほか3名

勤続章 城辺方面隊第1分団班長 大野 敬視 ほか21名

親子団員 城辺方面隊 垣本久・垣本卓摩

【愛南町長表彰】

内海方面隊第3分団団員 松原靖 ほか9名

【愛南町消防団長表彰】

御荘方面隊第1分団班長 松本翔 ほか17名

1/
27

ひとりでも多くの人へ水の大切さや重要性を伝えたい ニッコー株式会社がオリジナル絵本「水の王さま」を寄贈



愛媛
CATV
動画



▲絵本を手にする中村維伯町長とニッコー株式会社取締役水創り事業部の長谷勲部長

役場本庁町長室で、ニッコー株式会社から、オリジナル絵本の寄贈式がありました。ニッコー株式会社は、陶磁器や浄化槽、排水処理施設などさまざまな事業を展開しており、世界の水環境改善のため、まずは汚水処理に対する意識を高めてもらうことを目的に、大人も子どもも一緒に学べるオリジナル絵本を作成し、国内外で絵本の寄贈を行っています。

寄贈を受け、中村維伯町長は「幅広い年代に環境保全への興味を持ってもらう大きなきっかけになるものと考えています。今後の自然環境に優しいまちづくりに対する力強い後押しになる」と感謝を伝えました。

絵本は、町内の学校や保育所等に配布されます。

2/
4

自覚・立志・健康 決意新たに 令和6年度少年式



愛媛
CATV
動画



▲3人の生徒は記念合唱として女声三部合唱「生命が羽ばたくとき」を立派に披露

篠山中学校で令和6年度少年式が行われました。少年式は立春に合わせて行われる愛媛県の恒例行事で、昔の成人の儀に当たる「元服」を迎えた中学2年生が対象です。

雪が舞うなか訪れた多くの来賓や保護者に見守られ、2年生3人が緊張した面持ちで式典に臨みました。生徒会長を任命された岡崎心愛さんは、「生徒会長として責任ある行動をして学校を牽引していきたい」と抱負を述べました。また、木下きこさんは「テニスで全国大会出場と入試に向けた勉強の両立が目標」と力強く宣言し、岸愛乃さんは「医療に携わる仕事をしたいので入試勉強に全力を注ぎたい」と発表し、3人それぞれ最高学年への決意を新たにしていました。

2/
4

プロ選手から教わる身体の動かし方 愛媛マンダリンパイレーツ選手による体力向上教室を開催



愛媛
CATV
動画



▲教室の最後にはグッズ配布とサイン会が行われ選手たちと記念撮影も

体力テストにおけるソフトボール投げと50m走の記録を向上させることを目的に、愛媛マンダリンパイレーツによる運動能力向上教室が、城辺小学校の6年生を対象に計3回にわたって行われました。

愛媛マンダリンパイレーツの3選手（佐山蒼空選手、上野雄大選手、今福孝介選手）が小学校を訪れ、児童らは教えてもらったことを意識しながら練習に励み、教室3回目の記録測定では、1回目と比べ半分以上の児童がソフトボール投げ・50m走ともに記録を更新しました。

教室を通して、野球だけでなく愛媛マンダリンパイレーツへの興味も高まっている様子でした。